



■2023年5月27日(土) 大阪市内の官報ビル会議室で第15回通常総会を開催。2022年度事業報告及び会計報告、2023年度の事業活動、予算が発表され、承認されました。これまで理事としてご協力いただいております大川二郎さんが昨年10月にご逝去され、総会開始前に黙祷し哀悼の意を表しました。故人には尿中ヨードの検査の技術面でご指導をいただきました。



総会後の茶話会

■ネパール栄養学卒業生の日本留学に当たっての支援活動

①当NPO法人はこれまで農村の妊婦に絞って、ヨード検査とヨード補給及び栄養教育をプロジェクトとして毎年続けてまいりました。妊婦の出産児には他の兄弟と違ったプラス効果を得ましたが、他の兄弟や周辺に効果が波及しません。栄養への関心と知識が乏しいからです。そのために栄養学の教育機関と情報発信(主に、母親と子供対象)の基地の設置が不可欠であるという結論になりました。

一方、ネパール栄養士の日本留学の共同支援活動の社団法人・アジア協会アジア友の会では、ネパールの子どもや母親や妊婦の栄養状況に多くの課題があるため、その解決にはネパール人の栄養専門家を育成し、農村地域においても栄養改善指導ができる人の育成を実施することを第一次目的とし、この栄養改善指導に権威と恒久性を持たせるため社会システムとして国家資格「栄養士」(仮称)を定着させることが第二次目的とすることを決意。このために日本の栄養士育成過程をモデルとして栄養指導者を育成するため、日本留学をプロジェクト化した。

②2022年度はネパールの栄養学科卒業生2名を日本に招き、日本語学習に集中し、2023年度から、日本の栄養士資格を獲得するため、日本の栄養士養成教育を受講する予定。

学業関係の費用支援はアジア協会アジア友の会主導で京都西南ロータリークラブがスポンサー、生活支援は当NPO法人主導でフジッコ株式会社がスポンサー。今年度は100万円の生活支援を行った。

■毎日新聞大阪社会事業団より「世界こども救済金」助成金20万円

助成の事業名は「ネパールに於ける栄養教育の実態調査」である。

4年後には栄養士教育と説得力のある栄養知識を情報発信する基地としてネパール栄養専門学校を共同設立し、栄養学を学んだ栄養専門家をネパールの社会の仕組みの中で「栄養士」として、活動できるシステムをつくる目的を持っている。

栄養専門学校開設に当たってネパールの社会の実情にあった教育カリキュラムが必要である。そのために、栄養学科のある学校名と学生数、学科の設置カリキュラム内容(程度)などの実態調査をネパール留学生の